

歴史のなかの東北大学と社会

2013年度 東北文化研究室公開講演会

## 歴史のなかの東北大学と社会

### —「門戸開放」と女子学生—

2013年11月30日（土）13：30～16：30

東北大学川内南キャンパス 文学部第2講義室

#### 講演1 女性たち・留学生たちの学都仙台

永田英明（東北大学史料館准教授）

#### 講演2 女子学生運動事始

柳原敏昭（東北大学大学院文学研究科教授）

（企画趣旨）

今年の東北文化研究室の公開講演では、「歴史のなかの東北大学と社会—「門戸開放」と女子学生—」というテーマを設定させていただきました。その理由は、本年が、東北帝国大学に女子学生が初めて入学して100年となるからです。これは単に東北帝国大学に女子学生が入学したというだけでなく、日本初の女子大学生が誕生したことを意味します。また、本年は、京都帝国大学で起きた滝川事件から80周年に当たります。この思想弾圧の事件に対しては、東北帝国大学の学生達はその支援運動に深く関与し、女子学生も関わっておりました。そこで、これらのことをふまえて、戦前の東北帝国大学の門戸開放の歴史と女子学生の動向、また学生運動をふりかえり、歴史のなかで東北大学とその学生達が、社会とどのように関わったのかということを考える場を提供いたしました。

（安達宏昭）